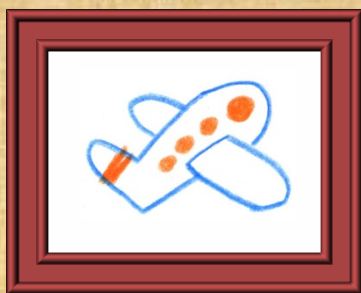


# すこやかな育ちのために

～特別支援学校（聾学校）の乳幼児相談～



お子さんの成長を一緒に考えましょう。

このリーフレットは、はじめて聾学校の乳幼児相談にいらした保護者の皆さんに読んでいただくことを目的に作成しました。お子さんとのかかわり方やお子さんの将来について知りたいことはたくさんあると思います。これから、お子さんの将来について一緒に考えていきましょう。

北海道教育委員会

平成21年8月



## 乳幼児相談室では、お子さんの育ちを支援します！

乳幼児相談室では、聞こえやことばの発達に心配のあるお子さんと保護者に対し、遊び等の活動をとおして、基本的な生活習慣の習得やお子さんへのかかわり方などについて、保護者の方と共に考えながら、お子さんのすこやかな成長に少しでも役立つよう支援を行っています。週に1～2回、来校していただき、お子さんとの接し方、お子さんにあったコミュニケーションの仕方、リズム遊びや運動遊び等のグループ活動をとおした発達支援を行っています。相談は無料です。お気軽にご相談ください。

### 子育てなどに関する相談

親子の好ましいかかわり方、年齢や発達段階に応じた子育てに関するアドバイスや、お子さんとの直接のかかわりをとおして、しつけや周囲の大人のかかわり方などの支援を行っています。



### 発達などに関する相談

お子さんの聞こえの状態や発達などにあわせ、多様なコミュニケーション手段（表情、身振り、動作、実物の提示、絵カードなどの提示指差し、口話、手話など）の選択・活用に関する情報提供や発達段階に応じたかかわり方についての支援を行っています。



### 就学に関する相談

保育所、幼稚園や小学校などへの入学や聾学校の幼稚部、小学部への入学について、それぞれの場所で生活・学習する上での配慮点などについての相談や情報提供を行っています。



## 乳幼児相談室では、このような活動を行っています！

### 個別指導

お子さんの発達や聞こえの状態、家庭環境などに応じて、個別指導を行っています。

保護者の願いやお子さんの将来について、今後の指導や支援に必要となることをお知らせします。

また、相談担当者が保護者の方と一緒に部屋で、お子さんへのかかわりを実際に行うなどして、より良い支援の方法をお知らせしたり一緒に考えます。



### グループ活動

友達やお母さんなどと楽しく遊ぶ中で、お子さんとのかかわりや接し方に自信が持てるようにします。

活動は、リズム遊び、お絵かきや工作、屋外活動（水遊びや雪遊び）、季節の行事を通して、基本的な生活習慣の習得や情緒の安定、保護者や友達とのかかわりをとおし、社会性の育成を目指しています。



### 保護者教室

参観日等の機会を利用して、保護者教室を開催しています。いつもは学校に来られない、お父さんやおじいちゃん、おばあちゃんなども対象にした学習会も行っています。いろいろなテーマで保護者等への情報を提供しています。

- ・「聞こえについての講演会」
- ・「家族講座、祖父母講座」
- ・「先輩のお母さんの話を聞く会」
- ・「手話教室」
- ・「聴覚障がいのある保護者等から話を聞く会」
- ・「幼・小・中学部等の授業参観」
- ・「家庭での過ごし方」

### スケジュールの例（週1，2回）

- 9:30 相談室へ健康チェック  
遊び活動、個別指導など
- 10:30 朝の活動、季節の活動  
お絵かき、工作など
- 11:30 設定遊び
- 12:00 お弁当
- 13:00 さよならの会

※午前中の活動の場合もあります。

# 多様なコミュニケーション手段

～お子さんの実態にあわせてコミュニケーション手段を選択・活用します～

## 手話

手話は、手指の動きを中心にして、頭や上体の動きと顔の表情、視線、口の形などによって表現し、視覚的に受容されるもので、聴覚障がいのある方同士のコミュニケーションや聴覚障がい者の家庭及び社会生活について、重要な役割をもつ言語です。

聴覚障がいのあるお子さんの多くは、視覚をとおしていろいろな情報を吸収しています。周囲の大人が手話を使う環境に育つお子さんの場合には、かなり早い段階から手話などを使って意思を伝えることができるようになる場合もあります。

お子さんに視線をあわせて、手話、身振りなどを使って、表情豊かに語りかけることが大切です。

また、手話は、事物や動作の具体的表現に優れており、聴覚障がいのあるお子さんにとって、分かりやすく心理的な安定が得られやすいです。

現在、我が国では、次のような手話が用いられているとされています。

「日本語対応手話（手話付きスピーチ）」

日本語の語順に従って話し言葉に対応して手話単語を表現する手話です。

「日本手話」

日本語とは異なる言語体系をもち、手指や体の動き、表情、視線、口の形などにより文法を表現する手話です。手話自体のとらえ方には、現在、様々なものがありますが、「日本手話は、日本のろう者が使う手話」と言われています。

道内の各聾学校では、お子さんや保護者の実態やニーズなどに応じて、「日本語対応手話」や「日本手話」などの手話を使った学習指導が行われています。

なお、道教委では「日本手話」で授業のできる教員を増やすために、研修会を実施するなどの取組を行っています

また、近年、「日本手話」で教育を行う私立学校が東京に教育特区として開校し、ここでは「日本手話」を第一言語、書記日本語（主に日本語の読み書き）を第二言語とするバイリンガルによる教育が目指されています。



指文字で「お・や・つ」



## 聴覚口話

聴覚口話法は、補聴器<sup>(※1)</sup>や人工内耳<sup>(※2)</sup>などの装用によって聴力を活用し、音や音声などを聞き取るとともに音声による意思の表出をとおして、日本語の獲得を目指す指導方法です。お子さんの聴覚の活用状態によっては、各音韻や語、文の聞き取り、アクセント、イントネーションなどの聞き取りが可能になる場合もあります。他人の声や環境音など、聴覚をとおして周りの情報が伝わることで、子どもの心理的な安定が得られやすいです。

補聴器や人工内耳などを装用し、聴覚を活用して、周囲の人とやりとりするためには、音や話し言葉を聞く経験を積んだり、聞くための練習を幼少期から行うことが必要です。また、補聴器等の活用に合わせ、話し手の口の形などを読み取ったり、会話場面から話の内容を推測する「読話（どくわ）」など他のコミュニケーション手段と併用することが一般的です。なお、聴覚障がいの種類や程度によっては、補聴器等の装用により得られる効果に個人差があります。そのため、お子さんの実態によっては、手話など、聴覚活用以外のコミュニケーション手段の活用・選択を考えていくことも大切です。

道内の聾学校では、お子さんのニーズや実態などに応じて、聴覚口話法での指導や聴覚口話法と手話などを併用した学習指導が行われています。

※1 補聴器とは、耳に入る音を大きくするものです。周囲の音や話し声が、補聴器のマイクロホンから入力され、増幅された音が耳に伝わります。

※2 人工内耳とは、手術で内耳の蝸牛という器官に細い電極を埋め込み、聴神経を電気的に刺激して、それを脳に伝えるという医療器具です。

### 指文字

指文字は日本語の1音1音に対応して、その音を手の形や動きで表します。日本語の仮名に相当します。他の手話表現と一緒に使用されることが多いです。

### 発音・発語

音や音声の聞き取り、発音の模倣、息遣いの練習などをとおして発音練習を行います。

視覚的手がかりとなるような「発音サイン」や母音の形に子音部を表す手指の形で表すキューサインを合わせて表現する方法などを活用することもあります。

## 福祉制度について

～身体障害者手帳～

聞こえの状況によっては、身体障害者手帳の交付を受けることで、福祉制度を活用することができます。身体障害者手帳は、身体障害者福祉法に基づき交付されるものであり、聴覚障がいの程度に応じて、各種の福祉サービス（特別児童扶養手当、補聴器や医療費の補助など）を受けることができます。また、身体障害者福祉法によるサービス以外にも、電車、バス、飛行機などの交通機関を割引で利用する場合や公共料金等の割引にも利用することができます。詳しくはお住まいの市町村役場、区役所の福祉課、保健師等にご相談ください。

## お子さんのよりよい成長のために

- 毎日の生活の中で、いろいろな活動や体験・経験の機会を広げましょう。
- 早寝、早起き、朝ご飯など、リズムのある規則正しい生活を送ることは、元気で丈夫なお子さんの育ちの基本となります。
- 小さなころは、お子さんと接する時間の多い母親やお兄ちゃん、お姉ちゃんが、お子さんのお手本になります。
- 子育てしながら、ご家族みんなで、楽しい時間を過ごしましょう。
- 乳幼児相談室ははじめご家庭のある地域の中で、他の保護者の方とリラックスした時間をすごしたり情報交換を行うなど、人とのかかわる機会を増やしましょう。

聾学校では、保護者の方が子育てを安心して楽しく行っていけるよう、聴覚障がいのある成人の方の話を聞いたり、実際に聴覚障がいのあるお子さんを育てた保護者の話を聞く機会を設けたりしています。

保護者の皆さんは、お子さんが将来どのように成長していくのか、社会に出て困ることはないのかなど、いろいろなことを心配されていることと思います。是非、聴覚障がいのある方や先輩の保護者にとって、その不安や疑問を問いかけてみてください。きっと不安が安心に変わることと思います。また、乳幼児相談室では、子どもたちの保護者同士が出会うチャンスもたくさんあります。保護者同士がお互いに励ましあって、将来のよりよい成長を願って情報交換しています。学校では、こうした様々な人との出会いや、子育てを楽しむ場を提供していきたいと考えています。

### 参考資料



「お子さんの耳がきこえない」と言われたら  
(全国早期支援研究協議会)



聞こえない赤ちゃんの楽しい子育て  
(全国ろう児をもつ親の会)



子育てを支援する資料（書籍やビデオ）はこのほかにもあります。また、各学校では先輩の保護者の話を聞く会、卒業生等の話を聞く会、手話の研修会なども行っています。詳しくは担当者にお尋ねください。

### 乳幼児の教育相談を実施している聾学校

北海道札幌聾学校	電話011-716-2979	FAX011-758-7617
北海道函館聾学校	電話0138-52-1658	FAX0138-52-1659
北海道小樽聾学校	電話0134-25-5411	FAX0134-25-5412
北海道旭川聾学校	電話0166-51-6121	FAX0166-51-6122
北海道室蘭聾学校	電話0143-44-1221	FAX0143-44-1208
北海道帯広聾学校	電話0155-37-2017	FAX0155-37-2017
北海道釧路聾学校	電話0154-41-4410	FAX0154-41-4410



### 相談機関

北海道立特別支援教育センター（教育相談） 電話011-612-5030 FAX011-612-6213

※相談はいつでも受け付けておりますが、学校行事等の都合で相談に応じられない場合があります。事前に電話またはFAXで来校希望日時を教頭または教育相談担当者までご連絡ください。

※最寄りの病院、療育センター、親の会等の関係機関の連絡先については教育相談担当者にお尋ねください。